

令和6年度

事業名	社会教育・生涯学習関係職員等研修会【合意形成力講座】
期日	令和6年10月18日(金)
参加者	39名
趣旨	持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上の実現に向けて、地域における人づくり・つながりづくりを促進する対話を通じた合意形成についての実践的な知識・技能を学ぶことを通して、社会教育・生涯学習に携わる職員の資質・能力の向上を図る。
活動の様子	
【説明】「本研修の趣旨について」	
福岡県立社会教育総合センター社会教育主事 高木 昇太	
	将来の予測が困難な時代が到来し、「人生100年時代の到来」や「新たな社会“Society5.0”の実現」、「こどもまんなか社会の実現」など解決すべき課題が多岐に渡る状況の中、人づくり・つながりづくり・地域づくりの循環を生み出すために、社会教育・生涯学習関係職員が社会教育のネットワークのハブとしての役割を果たすことが期待されている事、そのために合意形成について共に学ぶ研修であることを説明しました。
	参加者からは、「現状がわかった。」「趣旨を捉えることができた」等の声が聞かれ、合意形成を学ぶことの必要性への理解が深まった様子を伺うことができました。
【講話】「関係者の意見・意思を紡ぐ合意形成とコミュニケーション ～合意形成の基盤を創る「ファシリテーション」とは～」	
特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会フェロー 加留部 貴行 氏	
 	加留部先生は、企業、大学、行政、NPOの4セクターでの経験を生かしたファシリテーションを実践され、大学でも教鞭をとられています。
	講話では、コミュニケーションとは何なのか、どうすれば成り立つのか、ファシリテーションとは何なのか、ファシリテーターとはどんな人なのかを丁寧に、理論的に説明していただきました。また、参加者同士で意見交流を行う機会も多く設けられ、参加者はよりよくコミュニケーションをとるためにどうすればいいのかを体験的に学ぶこともできました。
	参加者からは、「わかりやすい説明で、基本の考え方がわかった。」「大切なポイントはシンプルで、どんな場面でも大切にしなければと思った。」「関係づくりがとても大切だと学んだ。」や「業務に使えるようなヒントがたくさんあった。」等の声が聞かれ、合意形成の基盤を作るファシリテーションへの理解の深まりと実践意欲の向上につながりました。

【講話・演習】「合意形成に向けたファシリテーションの実際」

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会フェロー 加留部 貴行 氏



引き続き加留部先生に講話・演習を行っていただきました。

まず、グループワークとして話し合いを行いました。参加者は熱心に話し合いを行いましたが、なかなか全員が納得する結論には至りませんでした。加留部先生からは、話し合いによって一体、何を合わせるのか、対立は必要なものと認識したうえでどのように解消していけばよいのか話していただきました。

その後、対話を通じて合意形成を図るためにどうすればよいのか説明していただいたから、ここまでに学んだことを生かす総合実践ワークとして、グループごとに60分間の話し合いを行いました。

ホワイトボードや付箋、模造紙などを使いながら、参加者はグループのみんなで納得解を引き出すために活発な話し合いを行いました。

話し合い後には、合意のために努力、工夫したことを出し合い、自分たちの話し合いの振り返りを行いました。

参加者からは、「講義を受けての実習だったので、学んだことを生かすことができた。」「具体的に学べてとても参考になった。」「対話を通して情報共有しながら議論することが大切だと思った。」や「自分の役割を考える機会になった。現場に戻ってから大いに活躍できそう。」等の声が聞かれ、講話で学んだ内容の理解を演習で更に深め、今後の業務への意欲につながることができました。

参加者の声

- 学びの多い一日だった。
- あっという間に時間が過ぎ、学びと気づきを多くいただいた。
- 参加して本当によかった。明日からでも試していけそう。
- 加留部先生御自身がファシリテーションを実践して見せていただいたと思う。
- 午前中に学んだことを午後に生かすことができた。とても有意義で楽しい研修だった。
- グループ発表がなかったので議論に十分な時間がとれた。最後に他のグループのホワイトボードを見られてよかった。



